



【学校教育目標】生きる力を備えた子どもの育成 ○たくましく ○やさしく ○かしこく ○うつくしく

## 本校の全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日（木）に全国の小中学校において実施されました。  
本年度の全国学力・学習状況調査の調査内容は以下のような構成となっています。

### ①教科に関する問題

国語科・算数科ともに、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題が構成されています。このため従来は「国語A・算数A」「国語B」「算数B」（45分×3コマ）というかたちで実施されていた調査も、今年度も「国語」「算数」というかたちで、それぞれ45分ずつ実施されました。

### ②質問紙調査（一人一台端末を使用し、4月23日にオンラインで実施）

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

この調査の目的は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに生かしていくことにあります。

7月末に文部科学省から本校児童の調査結果が送付されてきましたので、調査結果について分析を行ってまいりました。このたび、分析が終了いたしましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせいたすこととなりました。（本校のHPにおいても同じ内容について公表をおこないます。）

### 〔分析結果の概要〕

#### I 本校の教科に関する問題の状況（全国・山梨県との比較）

本調査における結果については、山梨県教育委員会による分析にならない、全国平均正答率との差が±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えております。



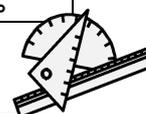
#### ①本校の教科に関する問題の結果は、次のようになっています。

国語：全国よりやや下回っています。 算数：全国よりやや下回っています。

#### ②問題別における各教科の課題

※問題別とは以下の観点において分類された問題形式になります。

選択式	記号を選び解答するもの
短答式	本文中からの抜き出しや書き換え、数値、数式などを単語や比較的短い文章によって解答するもの
記述式	答えの求め方や考え方、解釈や評価などを文章で解答するもの



- ・国語では、選択式及び記述式の正答率が、全国・県の正答率をやや下回っていますが、短答式の問題は、ほぼ同等の結果となっています。また、算数では、選択式の正答率が、全国・県の正答率よりやや下回っていますが、短答式・記述式の正答率は、ほぼ同等の結果となっています。
- ・国語、算数どちらにも共通の傾向としていえることですが、「図形や資料、文章などを読み解き、必要な情報を集め、それらを関連付けるとともに、そのことについて、自分の考えを図や文章にまとめ説明したり、文章化したりすることが不得意である」ことが読み取れます。

#### ③学習指導要領の内容・領域にみる本校の各教科の課題

- ・国語では、知識・技能においては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「漢字を文の中で正しく使う」設問では、全国・県を大きく上回っているが、「送りがないに注意して漢字を文の中で正しく使う」「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」「主語と述語の関係を捉える」趣旨の設問では、大きく下回っています。また、「情報の使い方に関する事項」の「情報と情報との関係づけ、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」趣旨の設問では、全国・県を下回っています。思考力・判断力・表現力等においては、「話すこと・聞くこと」の「目的や意図に応じ、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する」趣旨の設問で、全国や県を大きく下回っています。また「読むこと」の「人物像を具体的に想像する」趣旨の設問では、全国・県を上回っているが、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える」趣旨の設問で、全国や県を下回っています。
- ・算数では、「数と計算」の「除数が小数である場合の除法の理解」の設問では、全国・県を上回っています。しかし、「問題場面の数量の関係を式に表す」「数量の関係を□を用いた式に表す」趣旨の設問では、下回る結果となりました。また、「図形」における「立方体の体積の求め方を式に表す」設問では、全国・県を上回っているが、「直方体の見取り図を理解し作図する」設問では、全国・県を下回り、「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係を理解する」「情報

を基に、表から必要な数値を読み取り式に表し判断する」設問では、全国・県を大きく下回っています。  
 ・国語では、問題2一(1)「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする」問題3二(2)「人物像を具体的に想像する」は、よくできている問題であった。また、算数では、問題4(3)「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を記述する」、問題5(4)「情報を基に、表から必要な数値を読み取り、式に表し判断する」は、より課題のある問題であった。



④学力向上に関わる実践的な取組について

②③の結果から、学力向上のために次のことについて重点的に取り組んでいくこととします。

- ・基礎的な学習の定着を継続して徹底し、学習で身に付けたことを活かし、活用しながら問題を解決していく課題を設定する。
- ・国語においては、漢字(読み書き)を日々の学習指導において繰り返し練習したり、書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるよう、意識させるようにする。また、話し手や書き手を区別し、話し手の意図が伝わるように話の内容を検討したり、目的や意図に応じて、事実と感想・意見を区別しながら、相手に伝わるように、書き表し方を工夫し、自分の考えを文にまとめたりする活動に取り組ませていく。
- ・算数においては、数量の関係について、問題場面の数量の関係を捉え、四則を混合させたり、□や( )を用いたりして一つの式に表すなど、児童が考えた式を説明したり、比べることを通して、数量の関係を表すことができる良さを分かるようにしていく。また、立体図形の意味や性質を基に、図形の構成について文や図や数を用いて説明する活動を通して理解を深めていく。様々なグラフの意味を理解したり、作図を通し、数値や関係を正確に読み取れるようにしていく。

2 質問紙調査の主な特徴と改善に向けて

(1) 県や全国の結果より上回っていた質問

質問番号	質問事項
1	「朝食を毎日食べていますか」
2	「毎日同じくらいの時間に寝ていますか。」
4	「学校の授業以外に、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」
7	「携帯電話・スマホやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」
8	「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」
9	「自分にはよいところがありますか」
11	「将来の夢や目標を持っていますか」
16	「学校に行くのは楽しいと思いますか」
17	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」
25	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」
27	「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」
41	「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」
45	「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」
47	「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」
50	「算数(58理科・61英語)の授業は好きですか」
54	「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」
62	「英語の勉強は大切だと思いますか」



(2) 県や全国の結果より下回っていた質問

24	「新聞を読んでいますか」
28	「5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、 -2 (2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」
42	「国語の勉強は好きですか」
44	「国語の授業の内容はよく分かりますか」
算2	「算数の解答時間は十分でしたか」



※上記の表は、特に顕著なものだけを抜粋しております。

今回の質問紙調査においては、まず、「早寝・早起き・朝ご飯」などの基本的な生活習慣を身に付け、よりよい生活リズムを作っていくことが、健康や学力向上にもつながってきます。また、学習習慣づくりに関しては、家庭に配付しております「家庭学習の手引き」に沿って、家庭と連携しながら、計画的に家庭での学習の習慣化ができるよう行っていきたいと考えています。中学校生活に向け、自分でしっかり計画を立てて、自主的な学習に取り組むことや学習したことを活かしていく(役に立てていく)ことについても、意識付けをしていきたいと考えています。

規範意識・自己有用感等については、規範意識も高く、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」「人の役に立つ人になりたい」という思いをもつ児童も多いという一方で、自己有用感をもてていない児童もいます。「自分の行ったことが誰かのためになった」という体験を数多くさせる中で、自信をもたせるようにしていきたいと考えます。

また「人のために」「友達と協力して」「幸せな気持ちになる」という意識を高くもっており、情報化、グローバル化、多様化が急速に進展する中、自分と考えや習慣の違う人々と交流する中でも、こうした意識で関わり合うことができるような力をつけていくことができればと考えます。

ご家庭におかれましても、子供たちへの励ましの声かけや学習環境を整えるなど、ご理解とご協力をお願い致します。

学校HP  
(QRコード)

